

# 東海日中関係関係学会の 歩み

日中関係学会  
副会長

東海日中関係  
学会会長

川村範行

# 日本日中関係史学会東海支部設立会 及び記念講演会・祝賀開催設立会 1993年7月24日(土)

- 会場：中国大飯店（名古屋市中区）
- 西村嵩夫名古屋学院大学学長を支部会長に選出、挨拶
- 祝辞：中江要介日本日中関係史学会会長（元駐中国大使）
- 発起人・運営委員紹介
  - 原田泰浩（東海日中貿易センター）
  - 浅井正（法律事務所所長・弁護士）
  - 浅井加葉子（同朋高校講師）
  - 鐘ヶ江毅（東海銀行国際部調査役）
  - 渡辺淑人（名古屋大学大学院生）
- 講演：「日中関係における文化と経済」
  - 竹内實 京都大学名誉教授、学会理事
- 出席者：本部＝中江要介会長、竹内実、藤村幸雄、佐藤保、川西重忠理事
- 東海支部＝西村会長、浅井加葉子、浅井正、鐘ヶ江毅、渡辺淑人、  
原田泰浩発起人・運営委員、会員及び一般 約20余名
- 事務所：名古屋市東区東外堀町3 三章ビル306 浅井法律事務所内
- 事務局：浅井加葉子、原田泰浩



# 東海支部講演会・懇親会開催

## 1994年4月28日（木）

- 会 場：中国大飯店（名古屋市中区）
- 講演会 演 題 「中日文化交流について」
- 王 蒙 中国人民政治協商會議全國委員會委員、  
中国国際交流協会副会長
- 日本日中関係史学会：中江会長、川西、藤村両理事ら
- **王蒙氏を帯同**
- 東海支部：西村会長、浅井加葉子、原田泰浩はじめ会員
- 20余名参加

# 全国大会、北京シンポジウムに東海から出席 名古屋で全国大会開催

- 1993年10月2日 全国学会1993年度大会・シンポジウム（東京）  
\*東海支部から西村会長、嶋倉民生、浅井加葉子、浅井正、原田泰浩運営委員が参加。
- 1994年10月1日 全国学会1994年度大会・シンポジウム（東京）  
総合テーマ「日中関係の諸問題」  
「日本知識人の演繹思考と現代中国の実践基準」嶋倉民生（愛知大学教授、学会東海支部理事）  
\*東海支部から西村会長、浅井加葉子、浅井正、原田泰浩、各運営委員が参加。
- 1995年10月14日 中国中日関係史学会・日本日中関係史学会共催  
北京シンポジウム（北京）  
主題「21世紀の日中関係の展望とアジア太平洋地域の平和と発展」  
\*東海支部から浅井加葉子理事・事務局長、原田理事が参加
- 1996年10月5日 全国学会1996年度大会・懇親会開催  
（名古屋開催 中京大学）

# 活動課題の改善

- ① 運営資金
  - 1994年度 借入金15万円
  - 1995年度 本部会費とは別に1,000円徴収
  - 1996年度 会費の割り戻し金（還付率）を本部に要望
  - 1999年3月 東海支部が「地方支部への会費還付金問題」提案。1部を各支部に返還することを承認。但し具体的な金額は継続検討する。
  
- ② 会員拡大
  - 1993年 38名 \*役員1人10名の勧誘目標
  - 1994年 55名
  - 1995年 66名 \*全国合計157名うち東海43%（関東91名）
  - 1996年 79名
  - 1997年 88名
  - 1998年 90名
  
- ③ 会報の創刊
  - 1996年3月 「日本日中関係史学会 東海ニュース」創刊号発刊
  - 2004年 同13号まで

# 本部と支部の関係についての協議

- 1998年4月3日 日本日中関係史学会拡大理事会（於 神田学士会館）
- 学会名称変更について：学会の内容に適したものに「日本日中関係史学会」を歴史に限らず広範囲の研究をする意味から「史」を削除し「日本日中関係学会」に改称することを承認。
- 本部と支部の関係及び支部活動について：
  - 東海支部西村会長より「支部の主体性と自主性の尊重が学会全体の発展のために不可欠であり、各支部は独自性を高めて活動し、全国組織を応援する形をとりたい。従って各支部独自の名称を持ち、全国組織は緩やかな連合体として機能すればよい」の発言により、活発な議論の結果、西村東海支部会長の意見を基本的に了承。
- 1999年8月16日 日本日中関係学会と東海支部との緊急会合（東京）
- 東海支部から「日中関係学会を全国的な連合体組織に改め、各地区は各自独立した組織とし独立採算制運営を認めて欲しい」と提案、討議。
- 1999年9月9日 東海支部臨時理事会
- 支部名称を東海日中関係学会とすることを決議。
- 1999年9月25日 日中関係学会臨時総会
- 本部と各地区支部との関係改善：組織の独立制、財政の独立採算について、継続検討課題となった。但し東海支部の名称を東海日中関係学会と改称することを承認

# 国際シンポジウム開催など実施 名古屋・東京の連携

- 2000年7月 「インターネットとアジアの交流拡大」 (名古屋国際センター)  
**中国、シンガポールから専門家招聘**  
藤村幸義 (日経論説委員) 金子秀敏 (毎日論説委員) コメンテーター
- 2002年10月 日中国交正常化30周年記念シンポジウム  
「その時 名古屋が世界を変えた」 (名古屋/テレピアホール)  
**中日関係史学会名誉会長・丁民氏招聘**
- 2011年6月 ピンポン外交40周年記念シンポジウム  
「これからの日中関係をどう築くかーピンポン外交を振り返って」  
(名古屋会場) **中日関係史学会訪日代表団8名を招聘**  
「日中の戦略的な相互信頼と協力ー東日本大震災をいかに乗り切るかー」  
(東京会場)
- 2017年7,8月 **東海日中関係学会訪中団を派遣**  
外交部訪問、日本研究所との座談会、アリババ本部視察など
- 2021年4月 ピンポン外交50周年記念国際シンポジウム **〈次頁・後段写真〉**  
「名古屋ピンポン外交から半世紀の日中・米中関係」 (名古屋商工会議所)  
**小田悠祐・元後藤鉀二 日本卓球協会会長秘書**\*中国・米国から書面・ビデオ参加
- 2022年9月 日中国交正常化50周年記念特別シンポジウム **〈次頁前段写真〉**  
「激動する世界のなかの日中関係を考えるー国交正常化半世紀の検証と展望ー」  
(愛知大学) **藪中三十二・元外務次官** \*会場・オンラインのハイブリッド方式





# 東海日中関係学会訪中団派遣

2017年7月31日～8月4日



← 中国外交部訪問・懇談  
揚宇・亞洲司参贊  
(現大使館公使)

↓ 中国社会科学院日本研究所  
高洪・所長 (現政協外事委)

